



2024年漁期のヤリイカの漁況予測

令和6年11月1日
宮城県水産技術総合センター
環境資源チーム

本県のヤリイカ盛漁期（11月～翌年1月）における漁獲量は、9月の仙台湾（38°23'N, 141°33'E）の底水温及び10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）によって予測できることが知られている（増田 2015）。

そこで下記の式を使い、今漁期のヤリイカ漁獲量の見込みを推定した。

データセット：

$$Y=0.97X_1+100.66X_2-1362.64 \quad (n=24, r=0.83, \text{補正 } r^2=0.65, p<0.01 (X_1), p<0.01 (X_2))$$

Y；ヤリイカ盛漁期（11月～1月）の漁獲量（トン）

X₁；10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）

X₂；9月における仙台湾 St.12 の底層水温（℃）

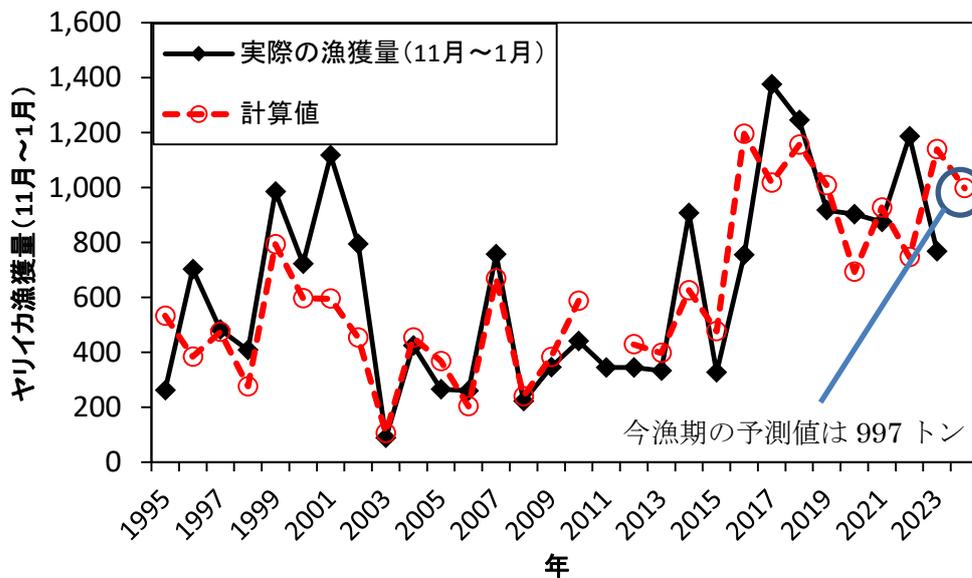


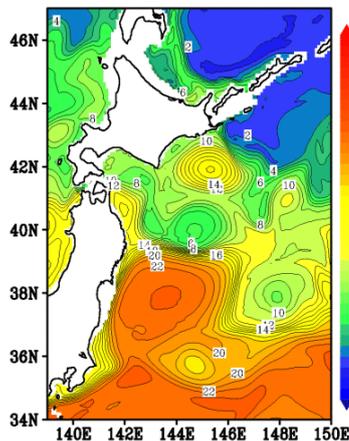
図1 1995年～2024年漁期におけるヤリイカ盛漁期の漁獲量（黒実線）と重回帰分析から得られた計算値（赤色点線）の関係。

今期の仙台湾へのヤリイカの加入条件は非常に良く（9月の底水温＝18.5℃，10月の底びき網漁船 CPUE＝513 kg/隻），今漁期の11月～翌年1月の漁獲量は、997トンと推定されました。海況（親潮の南下：底水温が6.8℃以下になると産卵場に適さないためヤリイカは南下します。黒潮続流の北偏：水温が高いとイカの群れがまとまりにくく、南下回遊が遅れて2月以降にピークとなる。）にも左右されますが、現時点では昨年の漁獲量（768トン）と平年値（640トン）を上回る漁獲が見込まれます。

参考 1

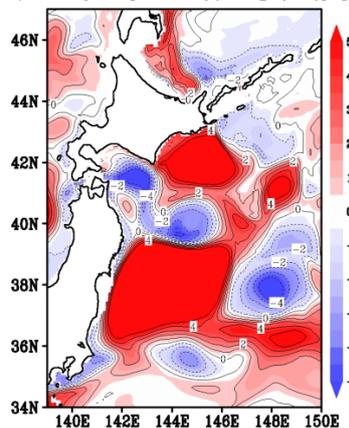
今年の 11 月の水温は非常に高い予報となっております。海水温が高すぎるとヤリイカの群れが散ってしまい、漁況予測期間の前半はまとまった漁獲とならないこともありますが、10 月に比較的高い加入があったことから、後半になればまとまった漁獲が期待されます。

FRA-ROMS II
2024/11-early Temperature[°C] (100m)



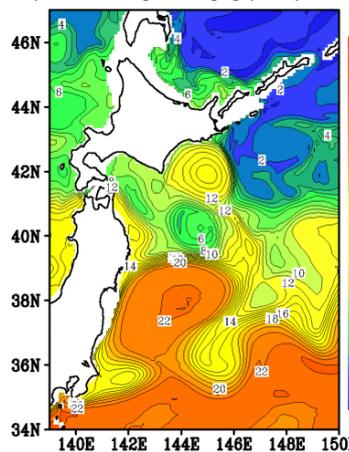
2024 年 11 月上旬/水温/平均値/100m (予報)

FRA-ROMS II
2024/11-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (100m)



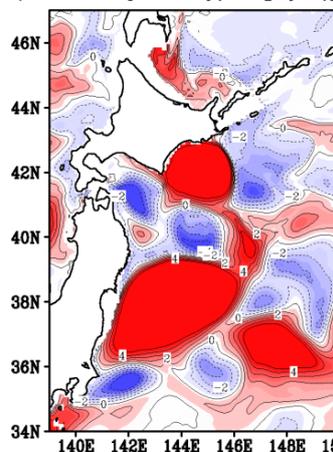
2024 年 11 月上旬/水温/平年差/100m (予報)

FRA-ROMS II
2024/11-late Temperature[°C] (100m)



2024 年 11 月下旬/水温/平均値/100m (予報)

FRA-ROMS II
2024/11-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (100m)



2024 年 11 月下旬/水温/平年差/100m (予報)

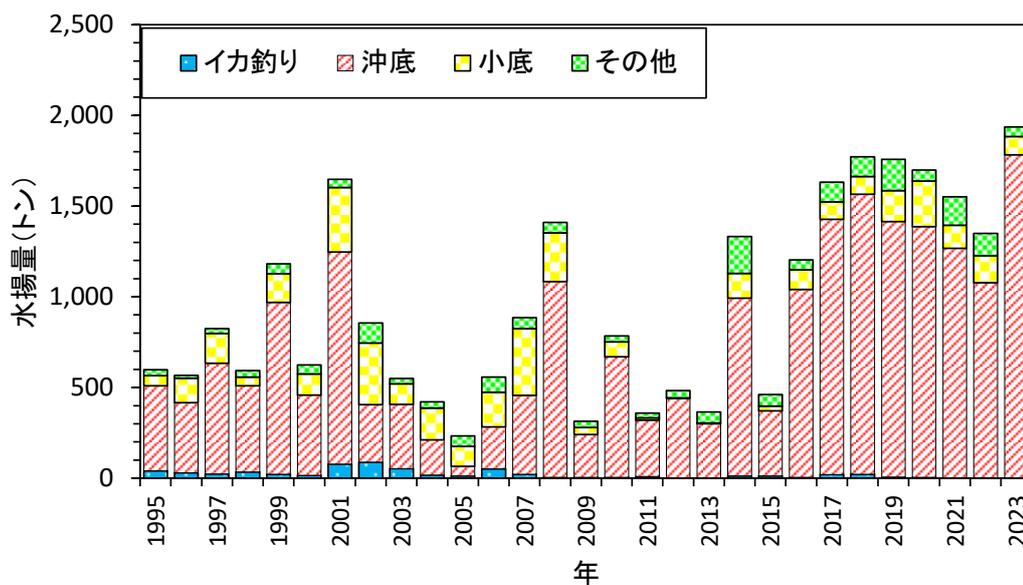
図 2 FRA-ROMS II による 11 月上旬及び 11 月下旬の水深 100m の水温予測

参考 2

今年 10 月の魚市場調査の結果、沖底によって漁獲され、ケンサキイカとして水揚げされたイカはほぼヤリイカでありましたが、ヤリイカの CPUE とほぼ同程度でしたので、ヤリイカ漁獲の計算値に与える影響ないと考えられました。

参考 3

宮城県のアリイカの水揚量は、2017年以降は1,500トンを超える高水準で推移し、2019年以降日本一となっています。2023年の水揚量は過去最高の1,936トンとなりました。近年は7月頃から定置網や小型底びき網で小型のアリイカが多獲されるようになるなど、仙台湾周辺では、鹿島灘から北上する従来からの来遊資源に加えて、仙台湾周辺海域でふ化した稚仔が新規加入することで、資源が急増し高水準を維持するようになったと推定されています。



宮城県におけるアリイカの水揚げ動向（暦年データ）